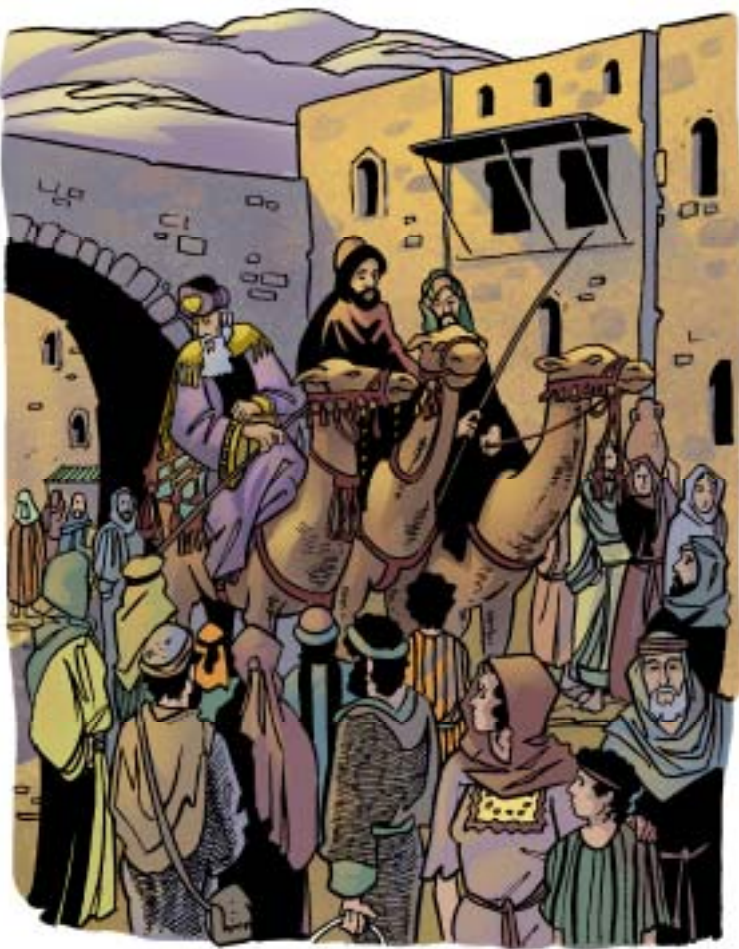


## きょう み しんしん はじ ものがたり だい ぶ 興味津々、初めてのクリスマスの物語、第3部

さて、ヨセフと マリヤと 赤んぼうの イエスは、ベツレヘムに とどまった。

ヨセフは 腕の いい 働き者の 大工だったから、きっと 家族を 養うために 仕事を 見つけただろうね。ホテルや 宿屋には いつも 直さなくちゃいけない 部分があるから、初めの内は 宿屋の 主人のために 働いたことだろう。宿屋の 主人は きっと ヨセフに 仕事を 与えて、彼らが 家を見つけるまでの間、馬屋に いさせてくれたんだろうね。



はるばる メソポタミヤから 博士たちが やって来たのは、イエス様が 生まれた 約2年後だ。彼らは 占星術師だったので、星を 読んでいたんだ。星を 調べていたとき、神様が ユダヤに 偉大な 王様が 生まれたことを 示された。それが だれかは 知らなかったけどね。

神様は 星を 使って 博士たちを 導いておられたが、彼らは 明らかに、自分たちの 理解力に 頼って こう思ったんだろう。「あの 星が わたしたちを 導いている ユダヤの 王が どこに おられるか、エルサレムの 王に 聞いてみよう！ ヘロデ王なら、偉大な 王が どこで 生まれたかぐらい、知っているだろうから。」それで、星を たどり続ける代わりに、ヘロデ王に 聞きに 行ったんだ。

ヘロデ王は 思った。(何て ことだ！ わたし以外の 王が この国に 生まれたって？ 王は、この わたしなのにな！)



それから、ずる賢い じゃ悪な 王ヘロデは 考えた。(わたしも、その王が どこに いるか、知りたいものだ！) そして 博士たちに こう 言った。「ユダヤの 王を 見つけたら、わたしにも 知らせしてほしい。わたしも、彼をおがみに 行くから！」

だけど、ヘロデ王は ユダヤの 王を おがみに 行こうなんて、全然 思っていないかった！ 殺そうとしていたんだ！

ヘロデ王は 自身の 博士たちを 呼び入れて 言った。「この『ユダヤ人の メシヤ』だとか いうのは、じっさいのところ、どこで 生まれることになってるんだ？」

彼らは 答えた、「聖書の 預言に よりますと、彼は ベツレヘムで 生まれることになっております。」

「ユダの 地、ベツレヘムよ、おまえは ユダの 君たちの 中で、決して 最も 小さいものではない。おまえの 中から ひとりの 君が 出て、わが民 イスラエルの 牧者となるであろう。」<sup>1</sup>

さて、博士たちは 再び 例の 星に 導かれて、ベツレヘムに やって来た。そこで イエス様を 見つけ、持ってきた 3つの 贈り物を ささげたんだ。



家に 入ってみると、幼な子は 母マリヤと 共に おられた。彼らは ひれふして 幼な子をおがみ、宝の 箱を 開けて、黄金、乳香、没薬を 贈り物として ささげた。<sup>2</sup>

乳香は 高貴な 香水 または お香で、祭司に 与えられるものだった。金は、王であることのしるしだ。この 2つの 贈り物は、イエス様が 王であり、神の 御子であるという しるしなんだよ！

没薬は、お葬式の 時に 使う香水だ。この 贈り物は、イエス様が わたしたち 人類を 罪から 救うために 死ぬことを 意味していた。

さて、神様は 夢の 中で 博士たちに 言われた。「ヘロデ王の 元へ 帰っては いけない。ヘロデは、イエスをおがみたいのではなく、彼が 偉大な 王になって 自身の 国を うばい取るのではないかと 案じ、しつとしているからだ！」

そして、夢で ヘロデのところに 帰るなどの み告げを受けたので、エルサレムを 通らず 他の 道を通って 自身の 国へ 帰って行った。<sup>3</sup>

つまり、博士たちは じゃ悪な 王ヘロデを 無視し、ほかの 道を通って 帰ったんだね。一方 ヘロデは、博士たちが 帰ってくるのを 今か 今かと 待っていたが、彼らは もどって来なかった。

かれ 彼らが 帰って行くと、主の 天使が 夢で ヨセフに 現れて 言った。「起きて、子供と その 母親を 連れて、エジプトに 逃げ、わたしが 告げるまで、そこに とどまっていなさい。ヘロデが、この 子を探し出して 殺そうとしている。」

ヨセフは 起きて、夜のうちに 幼な子と その 母を 連れて エジプトへ 去り、ヘロデが 死ぬまで そこに いた。<sup>4</sup>



エジプトまでは、ベツレヘムから 約300 k m も ある。昔は 長旅 だった。けれども 神様は、ヘロデ 王が 生きている間は、そこなら イエス様が 安全だと 知っておられたんだね。

ヨセフは ただの 大工だったのに、どうやって そんな 長旅の 費用を まかなえたか 思うかい？ 旅するには、お金が かかるからね！ ロバに 乗るんだったら、きつぷを 買う 必要はないけど、旅

をするには 食料や 旅行用品が 必要だ。きっと、テントや その他の キャンプ用品も 持って行っただろうね。



それに、彼らは 見知らぬ 国で 外国人として 何年か 暮らさなければ ならなかった。仕事も なかっただろうし、最初は 言葉も 話せなかっただろう。でも、生活していくには お金が 必要だよ。

覚えてるかい？ 博士の 1人が、イエス様に 金の 贈り物を ささげたよね？ それで、生活費は じゅうぶん あったんだ。神様の なさることは すばらしいね？ 彼らの 世話を し、必要なものを ことごとく 供給して下さったんだよ。

さて、ヨセフと マリヤが イエス様を 連れて ベツレヘムを出た 後、ヘロデ王は 兵隊たちに、ベツレヘムへ 行って イエス様を探して 殺せと 命令した。だけど 神様が ヨセフに 警告したおかげで、ヘロデ王の たくらみは 失敗に 終わったんだ。

数年後、神様は ヨセフに 言われた。「ヘロデ王は 死に、危険は 過ぎ去った。もう ナザレへ 帰るが よい。」それで、彼らは ナザレに 帰ったんだ。



かれ 彼らは、かなり ながい 間 いなかった  
よ。それで、家族も 友だちも きっと、  
いったい 彼らに 何が 起こったんだ  
ろうと 思っていたらうね。妻が 身  
重の 若い 夫婦が ベツレヘムへ 行  
ってしまったと 思っていたら、何年  
も たって 育ち盛りの 男の子を 連れて  
かえ 帰ってきたんだ！

イエス様は おそらく、エジプトの 人  
たちから いろんなことを 学んだら  
うね。そのころ、エジプトは 技術も  
文化も とても 進んだ 国だったから  
ね。エジプトは、神様が モーセを 送

って 教育を受けさせた ところでも あるんだよ。

それによって、エジプトから 神の 御子が 来ることについての 預言が 成就したんだ。

「わたしは わが子を エジプトから 呼び出した。」<sup>5</sup>

ということで、これが、2000年前の 初めての クリスマスの 物語だよ！ そして すばらしいのは、イエス様が 今でも わたしたちと いっしょに ここに おられるってことなんだ！

神様が みんなを 祝福し、守ってくださいますように。また、みんなを 他の人たちへの 祝福としてくださいますように。そ  
て、あの 歌のように、「あなたの すべての クリスマスが、明るいもので ありますように。」

お  
終わり

脚注：

- 1 マタイによる福音書 2:6、口語訳聖書
- 2 マタイによる福音書 2:11、新共同訳聖書
- 3 マタイによる福音書 2:12、口語訳聖書
- 4 マタイによる福音書 2:13-15、新共同訳聖書
- 5 ホセア書 11:1、口語訳聖書

デービッド・B・バーグによる著書の編集：クリスティ・S・リンチ

さし絵：ジェレミー 彩色：サビーン・リッチ

Copyright © 2010 年、ファミリーインターナショナル